

令和5年度 第7学年 数学科 年間指導計画及び評価規準

学期	月	時数	単元の内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	30	1章 正の数と負の数 (1) 正負の数 (2) 加法と減法 (3) 乗法と除法 (4) 正負の数の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>正の数と負の数の必要性和意味を理解している。</li> <li>自然数や整数、素数、正の数と負の数の大小関係、符号、絶対値の意味を理解している。</li> <li>正の数と負の数の四則計算をすることができる。</li> <li>具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。</li> <li>数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。</li> <li>正の数と負の数を具体的な場面で活用することができる。</li> <li>自然数を素数の積として表すことにより、約数、倍数などの整数の性質について捉え直すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正の数と負の数の必要性和意味について考えようとしている。</li> <li>正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>正の数と負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。</li> </ul>
			2章 文字と式 (1) 文字を使った式 (2) 文字式の計算 (3) 文字式の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字を用いることの必要性和意味を理解している。</li> <li>文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知っている。</li> <li>簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。</li> <li>数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解している。</li> <li>数量の関係や法則などを式を用いて表したり読み取ったりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字を用いることの必要性和意味について考えようとしている。</li> <li>文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。</li> </ul>
	6	23	3章 方程式 (1) 方程式とその解き方 (2) 1次方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解している。</li> <li>簡単な一元一次方程式を解くことができる。</li> <li>等式の性質と移項の意味を理解している。</li> <li>事象の中に数量やその関係に着目し、一元一次方程式をつくることができる。</li> <li>簡単な比例式を解くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。</li> <li>一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一元一次方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を考えようとしている。</li> <li>一元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>一元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。</li> </ul>
			4章 比例と反比例 (1) 関数と比例・反比例 (2) 比例の性質と調べ方 (3) 反比例の性質と調べ方 (4) 比例と反比例の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数関係の意味を理解している。</li> <li>比例、反比例について理解している。</li> <li>座標の意味を理解している。</li> <li>比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例、反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。</li> <li>比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例、反比例の必要性和意味について考えようとしている。</li> <li>比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。</li> </ul>
	2	12	5章 平面図形 (1) 図形の移動 (2) 基本の作図 (3) おうぎ形	<ul style="list-style-type: none"> <li>角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解している。</li> <li>平行移動、対称移動及び回転移動について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の性質に着目し、基本的な作図の方法を考察し表現することができる。</li> <li>図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現することができる。</li> <li>基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味について考えようとしている。</li> <li>平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>作図や図形の移動を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。</li> </ul>
			6章 空間図形 (1) いろいろな立体 (2) 立体の見方と調べ方 (3) 立体の体積と表面積	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間における直線や平面の位置関係を知っている。</li> <li>扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり、空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだしたりすることができる。</li> <li>立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味について考えようとしている。</li> <li>空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>空間図形の性質や関係を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。</li> </ul>
	3	2	7章 データの分析と活用 (1) データの整理と分析 (2) データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解している。</li> <li>コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味について考えようとしている。</li> <li>データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</li> <li>ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。</li> </ul>
(3) ことがらの起こりやすさ			<ul style="list-style-type: none"> <li>多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味について考えようとしている。</li> <li>不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたしている。</li> <li>多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。</li> </ul>	
		140	140時間			